

## 第2学年2組 国語科習指導案

日時：平成21年10月21日（水）

指導者：星野 寿幸

1, 単元名 「校舎の姿を後輩に伝えよう」

2, 単元目標

- 現在の校舎への愛着を深め、楽しんで文章を書こうとする。 (関心・意欲・態度)
- 伝えたい事柄を明確にして、構成や表現を工夫して書くことができる。 (書くこと)
- 書いた文章を読み返し、工夫した表現や上手く書き表せなかった表現を見つけ、推敲することができる。 (書くこと)
- 書いた文章を互いに読み合い、効果的な表現を指摘し自分の表現に生かすことができる。 (書くこと)
- 辞書を活用し多様な語句についての理解を深めることができる。 (言語事項)

3, 単元について（生徒観は省略）

○昭和32年に建てられた現在の校舎は今年で築52年を迎え、その間に8000名以上の卒業生を送り出している。数多くの卒業生を送り出した皆さんの思い出が詰まったこの校舎も、来年度末には新校舎が完成し、あと1年半で取り壊されることになっている。

現在の2年生は、現校舎の最後の卒業生となる。新校舎で生活できないことを残念に思いつつも、現校舎の最後の卒業生となることに運命的なものを感じ、52年の校舎のあゆみを調べてみたい、この校舎を何らかの形で記録に残し後輩たちに伝えたいと思っている生徒が多い。

そこで、「校舎の姿を後輩に伝えよう」という単元を設定し、現校舎の様子を写真と文章で記録したフォトストーリーを作成する。その上で、来年度は、過去の卒業生の人たちから52年間の校舎の思い出を聞き取り記録集を作成したいと考えている。最後の卒業生としての足跡を残すと共に、後輩たちに現在の校舎の様子を伝え、何十年後かに「自分は三刀屋中学校旧校舎の最後の卒業生だ」と誇りを持って語れる確かな足跡を残して卒業して欲しいという願いを込めてこの単元を設定した。

○書きたいことがあるのに上手に書けない。思っていることをどう書き表していいのかわからないという生徒に、書くことは楽しい、自分を表現することは楽しいと感じてもらうには、知的好奇心をくすぐる生徒の意欲を喚起するような題材を用意することが必要である。田中宏幸氏の『発見の導く表現指導』（1998年5月、右文書院）の中にも「書くに値する内容」を発見すること、「書く意欲を喚起する指導」の重要性が繰り返し説かれている。

毎日生活している校舎では、日々たくさんの出来事が起こっている。それぞれの教室に十人十色の思い出があるはずである。校舎の中で自分の落ち着く場所、気に入った場所があるはずである。各自が校舎内を写真撮影し、それに文章を添え自分だけのフォトストーリーを作成する。校舎の面影を伝えるフォトストーリーを作成する活動は、生徒の書く意欲を喚起するには十分な題材である。

○2年生の1学期にはラッセル・フリードマンの「小さな労働者」を用いてフォトストーリーづくりを行っており、生徒たちは意欲的に作品づくりに取り組んだ。この単元のフォトストーリーづくりにも抵抗なく取り組めるはずである。

大西道雄氏の『意見文指導の研究』（1990年、溪水社）によれば、文章表現の指導過程として①書く場の設定、②創構過程、③文章化過程、④処理過程の4つをあげている。この指導過程に照らし合わせて校舎の面影を伝えるフォトストーリーづくりを行うことにする。

①書く場の設定として、出来るだけ多くの写真を準備し、生徒一人一人が自分が書きたいと思える写真を見つけられるようにしたい。②の創構過程の指導としては、「はじめ・なか・まとめ・むすび」の文章構成の枠組みを示した手引きを用い、構成メモを作成する。③の文章化過程の指導でも手引きを利用する。文章の書き出しや「なか」「まとめ」「むすび」部分の表現をある程度指定した枠組みを示すことで、表現の技術を示唆し書けるという見通しをつけさせたい。また、推敲が容易に行える上に、データとして処理するのに便利であることから文章はワープロで作成する。④の処理過程では、

自己評価と相互評価を行う。どのような点に着目して評価を行えばよいのかを示した手引きを作成し、生徒同士の交流を促し、互いに認め高め合う関係づくりを生み出したい。これらの評価は、コンピュータールームの学習支援システムを用いて行う。

出来あがった作品は1冊の冊子にまとめ、文化祭や3年生を送る会で展示をする。学校便りにも継続して掲載し、地域の方にも見ていただこうと考えている。

#### 4. 指導計画（全5時間）と評価規準

時	主な学習活動	関心・意欲・態度	書くこと	言語事項	評価資料
1	①学習目標の確認 ②事前アンケートを参考に、フォトストーリーに用いる写真を選ぶ。	②自ら進んで写真を選ぼうとしている。			ノート
1	①手引きに従って、レイアウトを考え文章を添えて、フォトストーリーを作成する。	①試行錯誤しながらレイアウトを考えている。 ①意欲的に文章を書こうとしている。	①文章の展開を考えて構成メモを作成している。 ①辞書を利用し、効果的な表現を工夫して書こうとしている。	①積極的に辞書を活用しようとしている。	構成メモ フォトストーリー 語句調べカード
1	①書いた文章を読み直し、自己評価を行う。 ②自己評価をもとにして、文章を推敲する。	①フォトストーリーを読み返し、工夫した表現や上手く書き表せなかった表現を見つけることができる。 ②フォトストーリーを読み返し、自分の作品を良いものにしようとしている。	②自己評価を参考に、写真や文章を書き加えたり削ったりして推敲している。	①積極的に辞書を活用しようとしている。	フォトストーリー 自己評価表 語句調べカード
2 2/2 本 時	①他の人のフォトストーリーを読み、手引きをもとに批評する。  ②自分の作品の批評を読み、学習を振り返える。	①他の人の作品を意欲的に読もうとしている。  ②他の人の考えを聞いたり読んだりして、校舎への愛着を深めようとしている。	①他の人の作品を読み、自分の表現に生かそうとしている。	①他の人の作品を読み、語句について理解を広げようとしている。	相互評価表 発表 語句調べカード 学習振り返りカード

## 5, 本時 (5 / 5 時間目) の学習

### (1) ねらい

- 他の人の作品を読んだり、相互評価をすることで、現在の校舎への愛着を深めようとする。
- 他の人の文章を読んで、工夫した表現を読み取ることができる。

### (2) 研究の視点

- 生徒たちが書くことは楽しいと思える学習課題であったか。
- 書くことが苦手だと感じている生徒への支援は適切であったか。

### (3) 本時の展開

時	学 習 活 動	評 価 の 観 点	A・Cと判断される生徒への手だて
導 入	①本時の目標を理解する。 「フォトストーリーを読んで、友人の思いを読み取ろう。」		○適宜、国語辞典を引くように指示する。
展 開	②手引きに従って友人の作品を批評する。 ・誰の作品を批評するかは教師が指定し全員の作品に批評が寄せられるようにする。 ・批評は担当したフォトストーリーに添付し保存する。 ・作品を見ながら互いに批評しあう。 ・手引きは、「・・・がなるほどと思いました。」などの表現を取り入れ互いの良さを温かく認めあえるよう工夫する。  ③自分の作品の批評をもとに、学習振り返りカードを記入する。	②友人の努力を認め、共感的な立場で批評を書こうとしている。 ②見出し、文章の構成、文と語句について批評している。  ③友人からの批評を聞き、自分の作品を読み返し、今後に生かそうとしている。	○共感的に読むことの大切さについて教師が話をする。  A:手引きに示していないことについても書き加えるように促す。 C:手引き中で比較的書きやすい項目を示し、その部分から書き出すように指示する。
終 末	④学習振り返りカードを発表する ・あらかじめ発表する生徒を決めておき、学習を振り返っての感想などを発表する。		

### (4) 本時の評価の視点

関心・意欲・態度	書くこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人の作品を意欲的に読もうとしている。</li> <li>・友人の考えを聞いたり読んだりして、校舎への愛着を深めようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人の作品を読み、色々な視点から批評のコメントを書いている。</li> <li>・学習を振り返り、自分の思いや学習成果を順序立てて書いている。</li> </ul>

## 6, 準備物

フォトストーリー、手引き、国語辞典